

# 日刊 動労千葉

80.9.8  
No.528

国鉄千葉動力車労働組合  
千葉市要町二一八(動力車会館)  
(鉄電)三三八・九(会衆)三三三・七二〇七



# 「客貨分離」策動粉碎 申11号要求を聞いてとろう

三里塚・ジェット闘争貫徹ノ「国鉄35万人体制」粉碎ノ  
さらに、山口交渉部長から、35万人体制とジェット燃料貨車輸送延長をあくまで固持するが故に全くかたくなな態

全支部一体となって「55.10」↓「56.3」↑  
— 中野書記長が基調報告 —

「国鉄35万人体制粉碎、55.10ダイヤ改悪阻止、九五動労千葉絶決起集会」は、全支部から五〇〇名の組合員が結集し、国鉄当局の56.3ジェット燃料貨車輸送期限延長を先どりした攻撃たる「55.10ダイヤ合理化」強行姿勢に対する怒りを叩きつけ、あくまで「申11号要求貫徹」の決意をみなぎらせ、意気高く千葉局前集会・デモを貫徹した。叩いはいよいよ正念場に入ります。断乎として叩いぬこう。

## 55.10ダイヤ改悪阻止 局前に五〇〇名結集絶決起集会

「九五絶決起集会」は18時10分千葉鉄局前広場にぞくぞく組合員が結集する中で、布施執行委員の司会で始まった。冒頭、奥川委員長からあいさつ——「鈴木内閣の仄つぎ早々の反動攻撃と労仲組合に対する攻撃の激化の中で、動労本部は、これに全面屈服の路線をとるうとしている。われわれは「55.10」の叩いを「56.3」の叩いでもあるととらえ、全支部一丸となって叩あう。

つづいて、元動労本部副執行委員長中江昌夫氏よりあいさつ——「動労本部」は先の全国大会で「大胆な妥協」路線で、動労の歴史を否定し、反合闘争を放棄し当局に屈服した。又、この一年間に約六億円もの赤字を出すまでに組織を私物化、喰いつぶしている。「本部」反動分子に対する批判と不満・不信の声は全国で起っている。「55.10」を起点に新たな決意で反合・反戦三里塚・動労大改革にむけ共に叩いぬいていこう。」

度を続ける国鉄当局に対し、取場の叩いと精力的な交渉をもって一歩一歩当局を追い込んでいく交渉経過の報告をうけたのち、中野書記長から次のような基調報告をうけ、「客貨分離」策動粉碎、ジェット延長策動粉碎の基軸をうち立てて叩うことを確認した。

- (1)「55.10」を起点に「56.3」ジェット闘争「勝利」へ
- (2) 全国で一萬二千名、千葉局三百名の要員削減。
- (3) 特に「56.3」を目前にして佐倉柵岡区における四本の列車削減に対して15名減、をはじめ計39名の柵岡士要員を生み出す攻撃。
- (4) 従って「55.10」粉碎の叩いは「35万人体制粉碎」と同時に「56.3」ジェット闘争の重要な前哨戦であり、④それ故に当局・本部「反動分子」日女などの反動の連合が一斉に動めき出している。断乎としてこれに勝ちぬこう。
- (5) 「本部」反動分子一掃・動労大改革、組織強化を

① 動労名古屋大会は「財政」も「路線」も全て反動分子によってじゅうりん破壊されつつある現状をつき出した。動労大改革への叩いを更に強化しよう。② 当局・革マルの先女としてジェット闘争破壊に立ち現われた嶋田・土屋らを一掃し、「再建地本」策動を徹底的に粉碎していこう。

最後に白井(幕張)松崎(新小巻)堀口(佐倉)の各支部長と田中青年部長の決意表明をうけ、局前大デモンストラーションをもって成功裡に終了した。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!